

鳥取・米子市(たねだ写真店)の種田進氏 長年の地域貢献で瑞宝単光章

内閣府が4月29日付けで発表した平成29年春の叙勲で、元鳥取県写真師会連合会会長、元一般社団法人日本写真文化協会理事の種田進氏が瑞宝単光章を受章した。去る5月8日、鳥取県知事より勲記勲章の伝達を受け、同月11日、夫人と共に皇居へ参内、天皇陛下に拝謁した。

82歳、昭和33年米子市内にたねだ写真店を開設、県写真師会会長として活躍する一方、民生員、児童員として地元社会福祉に長く貢献。現在に至っている。

郷土、そして業界の開祖 蓮杖翁の偉業称え慰霊祭

■第36回下岡蓮杖慰霊祭

下田市の下岡蓮杖を顕彰する会主催による第36回下岡蓮杖慰霊祭が、6月12日(月)下田公園の蓮杖台で行われた。

主催の「下岡蓮杖を顕彰する会」の土屋市次郎会長の挨拶の後、楠山俊介下田市長、そして当協会・荻島孝之監事の挨拶があり、蓮杖翁が眠る染井霊園からの分骨

に関わった長楽寺・住職の読経のもと、参列者より献花が行われた。

さらに、校歌の歌詞に「愛の正長、技の蓮杖」とある地元・下田小学校の6年生が今年も参加し元気に校歌を斉唱、その歌声に居合わせた参列者は笑みを浮かべながら耳を傾けた。

続いて、下田ボランティアガイド協会会長の増田信隆氏の講和の中、小学生を対象に正長、蓮杖の功績と農家の出身でありながら毛筆で英和辞典を作った方など4名のお話があり、町の誇りである方々の功績を伝え、想像を絶する努力の元、この名声があることを小学生に伝えた。

慰霊祭終了後は

市内の蕎麦処で蓮杖翁の親族、下田市写真部の方々も参加して親睦を温めた。

蓮杖台には、顕彰碑、胸像などあり裏面には文協や全国の協会の名が刻まれている。下田市を訪れる機会があれば是非立ち寄り下さい。なお、文協からは荻島監事、堀江事務局長、そして磯が参加した。
(記 広報部・磯)



歌を披露してくれた下田小の生徒さんたちと参列者。(撮影=磯武)

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。



奥田 操さん (おくだ・みさお=元一般社団法人日本写真文化協会会長、元協同組合日本写真館協会理事長、現日本写真

文化協会顧問・奥田昇氏の妻) 6月23日(金)に逝去。享年83歳。埼玉県川口市内のさがみ典礼川口駅前葬斎センターにて6月28日(水)に通夜、翌29日に告別式がしめやかに執り行われた。喪主は夫の奥田昇氏。かねてから病氣療養中だった。

編集 後記

『空からおちてきた男』という本をお借りしました。飛行機が墜落し部族に助けられますが、手元に残ったのは残り10枚のポラロイドカメラが1つ。そのカメラで写真を知らない部族を撮っていくというお話です。その中で主人公は限りあるシャッターで本当に撮りたいものについて考えていきます。この本を読んでから、私の本当に撮りたいものとは何か、もし最後に写真を撮るとしたら何を撮るか、を考えるようになりました。一呼吸置いてじっくり物事を観察すると、日常的な風景がとても綺麗に見えてくるものですね。 内田 守